

時をめくるめく世のすみで

In a corner of the world
where time flows

何気ない瞬間 “ときめき” があふれる世界について - 日常に新たな見方と解釈を与えるアート表現研究 -

Rumiko Taoka

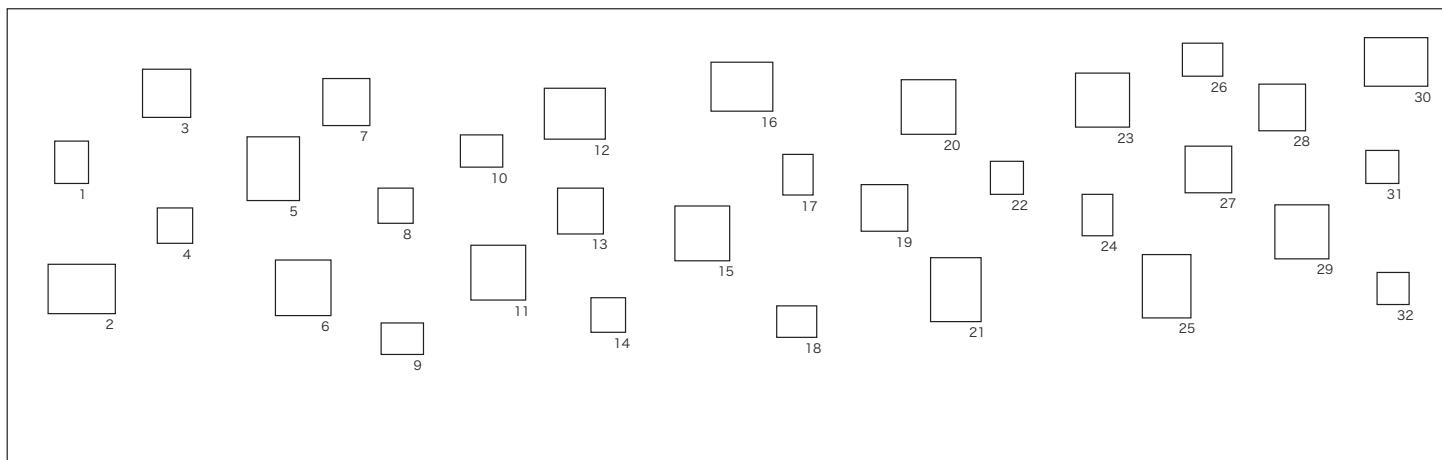
02.07 Sat - 02.10 Tue

長岡造形大学 卒業・修了研究展

無断転載禁止

- 作品リスト -

Do not reproduce without permission.



no.	作品名	ページ	no.	作品名	ページ
1	Secret Message	03	17	おだいじに	19
2	どんぶらこ	04	18	第二章	20
3	赤い惑星	05	19	みいつけた	21
4	配線密集地帯	06	20	サンセット・ルーム	22
5	おいで	07	21	クリスマスツリー	23
6	ヨットの帆	08	22	酸欠注意	24
7	三日月ひとつ	09	23	雨だれ	25
8	孤高の枯草	10	24	砂漠の雪	26
9	いのちのかがやき	11	25	燃えていた	27
10	リバーサイド・ノルディック	12	26	行き先は未定	28
11	雪花リボン	13	27	3すくみ	29
12	作者不明	14	28	指をはしらせて	30
13	路肩の集合体 A	15	29	ALWAYS WATCHING YOU	31
14	Family	16	30	星座をなぞる	32
15	春の池の集合体 A	17	31	煽動	33
16	五線譜のメロディ	18	32	わたしのまくら	34

私は常々思う。つまらない人生を送っていると。

何のために生まれ、何のために生きているのか、考えてしまう。

一日一日がめくるめく過ぎていく。

「お疲れ様」と言いあうことが当たり前の日々。

こんな世に、正直飽き飽きしていた。

そんな時、それは突然姿を現した。

それは、いつも私のそばにいた。

それは、何者かに見つかることを、ずっとそこで待っていた。

なんだ、こんなくだらないもので良いのか。

私は救われた気がした。

私はそれらを“ときめき”と名付けた。

「“ときめき”を見つけた時、“ときめき”はそこに存在し、

その“ときめき”を見つけた私も存在している。」

と実感できる。

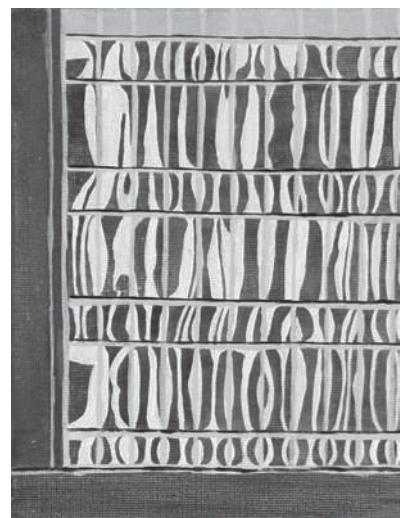
“ときめき”を見つけることが、私の生きる意味だと感じた。

この小さな楽しみを大切に、生きていくこうと思う。

Rumiko Taoka

1

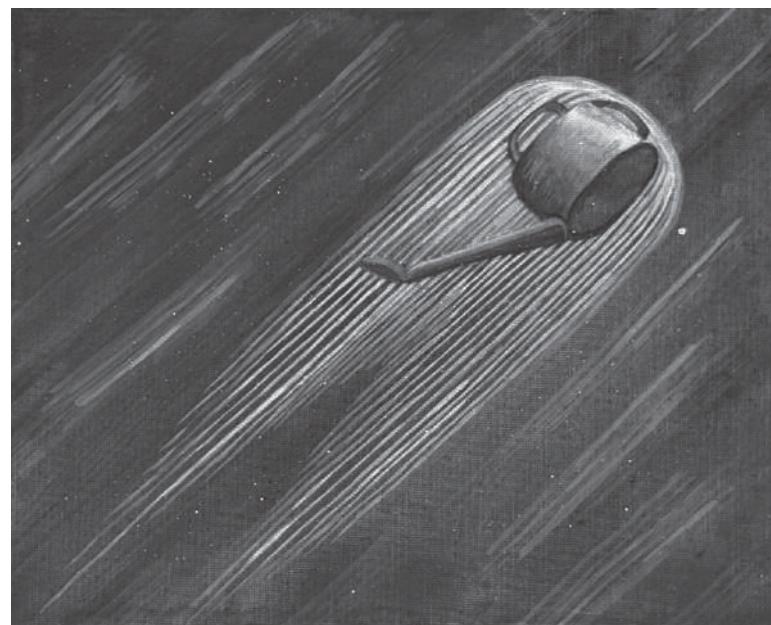
Secret Message



ビルに映ったビルは
作られた美の均衡を崩され、
生成画像のような文字列へと姿を変えた。
歪んだ文字による文章にも見える。
何かの暗号を、反射を通して伝えているのだろうか。

2

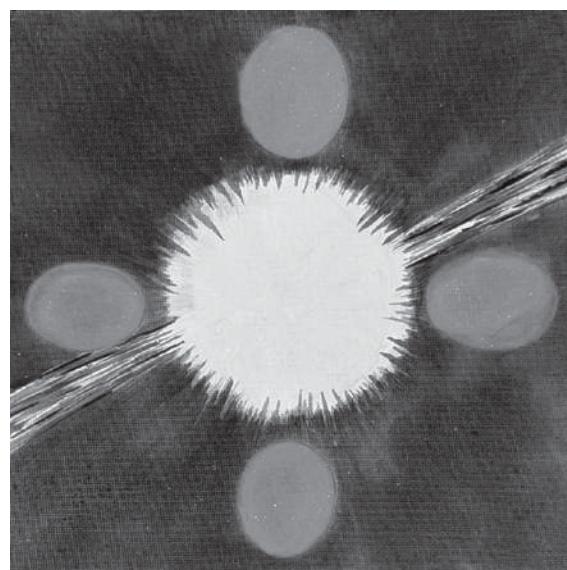
どんぶらこ



真夜中、側溝から
大きなジョウロが
どんぶらこ、どんぶらこ、と
大きな音を立てて流れてきました。
私は川へ洗濯をしに行ったわけではないので、
そのままジョウロは流れていきましたとさ。

3

赤い惑星



何の意図もなく、カメラを太陽に向けようとした時、

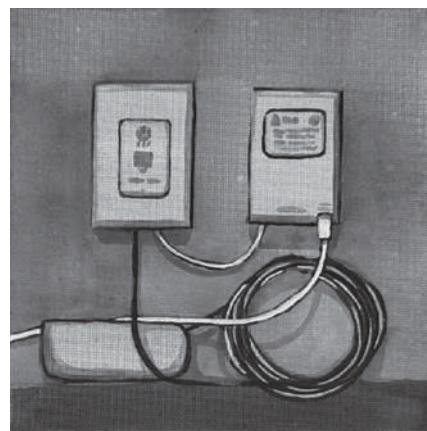
白く輝く恒星と、その虹色の環（リング）、

そしてこの赤い惑星は誕生した。

この広い宇宙のどこかにあるのかもしれない。

4

配線密集地帯



越してきたアパートには、無駄な配線が多かった。

からまるごとを避けるため、一箇所にまとめたところ、

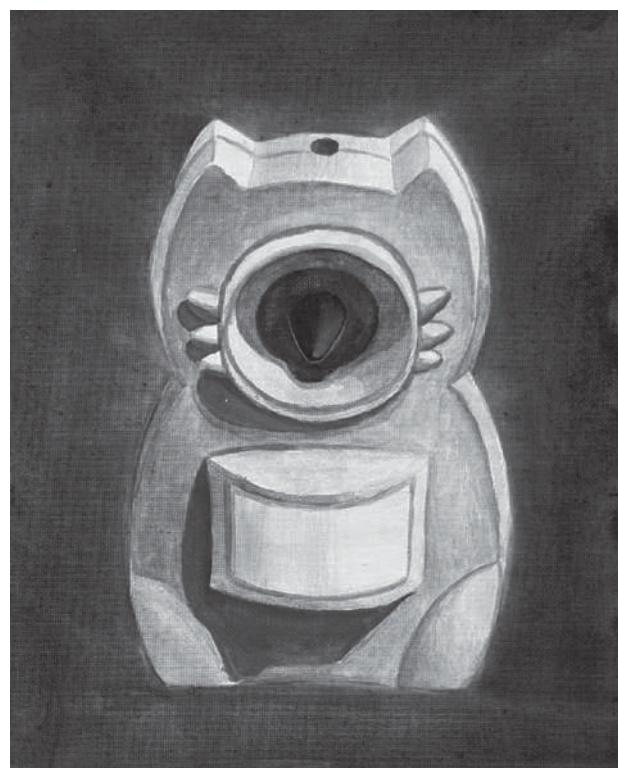
どうもおさまりが良い。

ここは配線密集地帯。

一本を除き全てダミーである。

5

おいで



祖父母の家に、10年以上前からある、

猫を寄せつけないための機械があった。

物音に反応してモスキート音を出す仕組みだ。

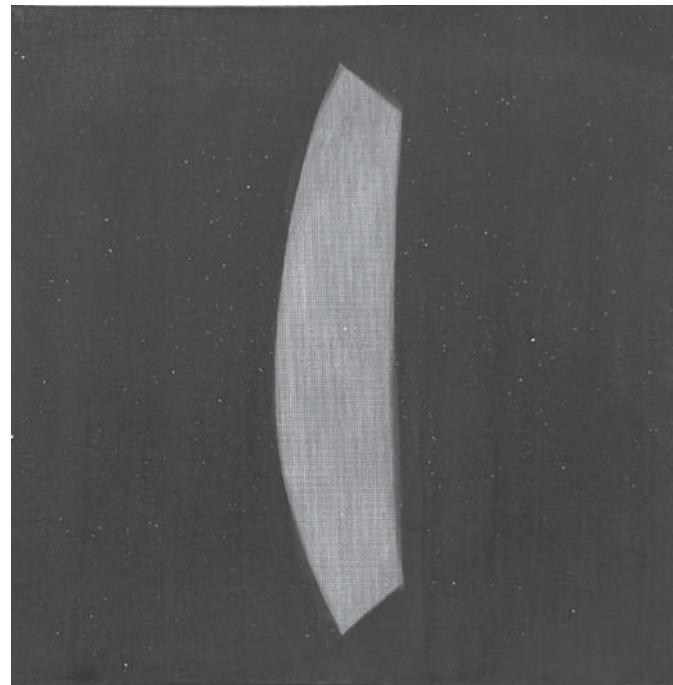
くりぬかれた顔の部分から、音は発せられる。

避けるためのものなのに、なぜか、引き込まれてしまう。

まるでブラックホールのように。

6

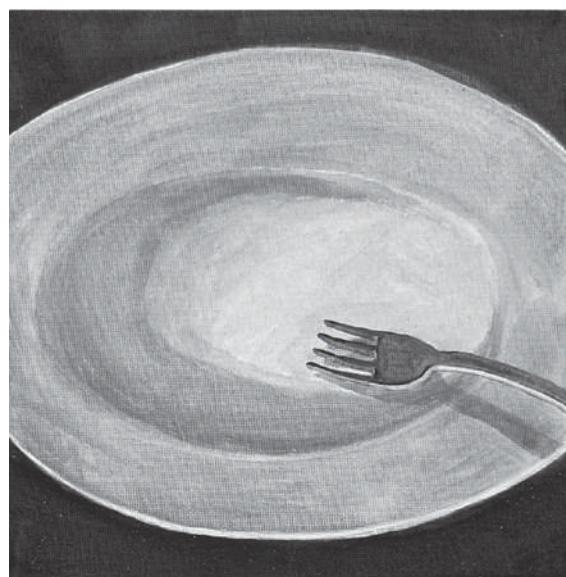
ヨットの帆



光と影は暗い闇夜の大平原に、
一艘のヨットを浮かばせ、
そのあたたかい色の帆を風になびかせた。

7

三日月ひとつ



カルボナーラを食べ終えた皿に、

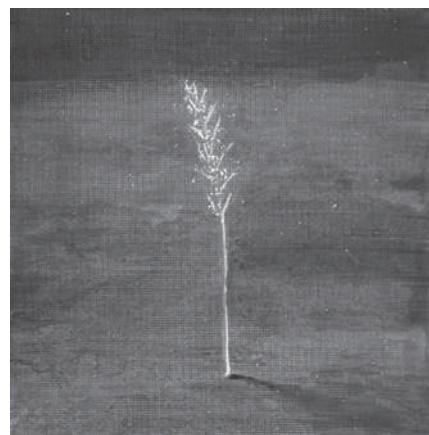
大きな三日月がひとつあった。

星で美味しさを評価するように

三日月でそう評価した。

8

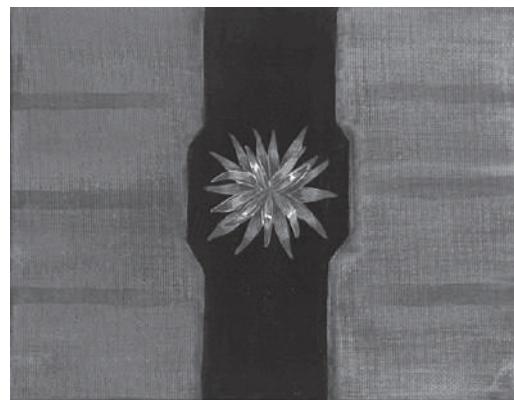
孤高の枯草



いつからそこに生えていたのか
知ることもできないが、
雨にも風にも
落ち葉の猛威にも負けず、堂々と、
ただそこに立ちつくす。

9

いのちのかがやき



わずかな光をたよりに、

懸命に生きる。

その強さ。

10

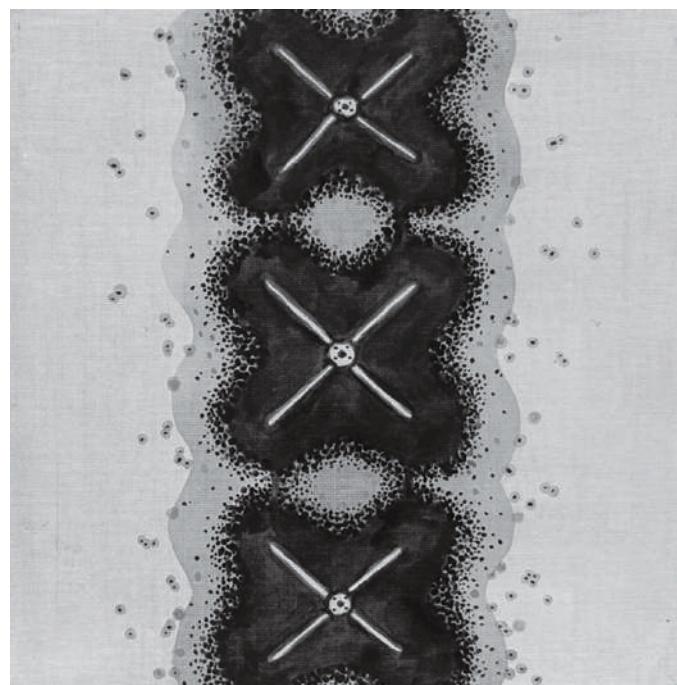
リバーサイド・ノルディック



川に反射した建物のガラス窓と、
その川の流れによって
北欧テキスタイルデザインが現れた。
いかんせん、これはただの川の流れなのだから、
そのような考えは水に流され、どこかに消えた。

11

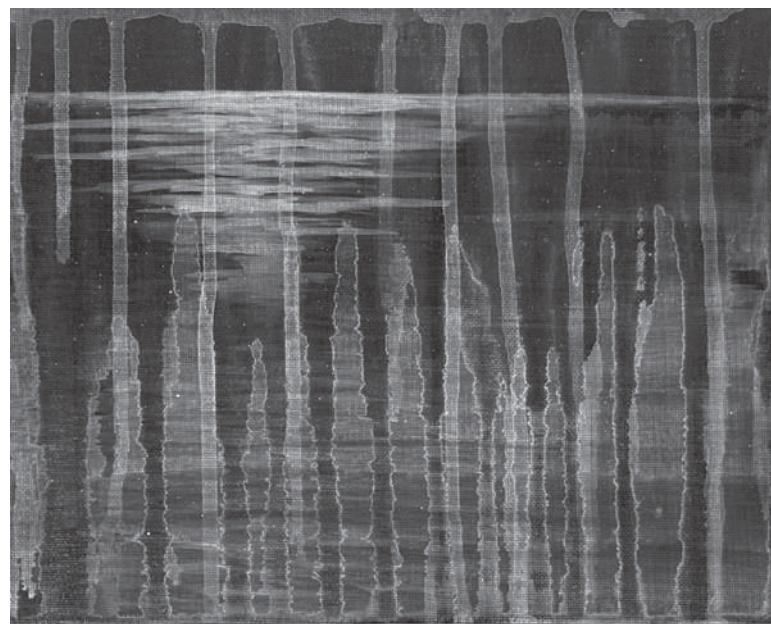
雪花リボン



雹が降り始めたその瞬間、
あたり一面が真っ白になり、
その数秒後、雪の花が浮かびってきた。
この雪のパターングラフィックは、
探し出せばもっと見つけることができるのだろう。

12

作者不明



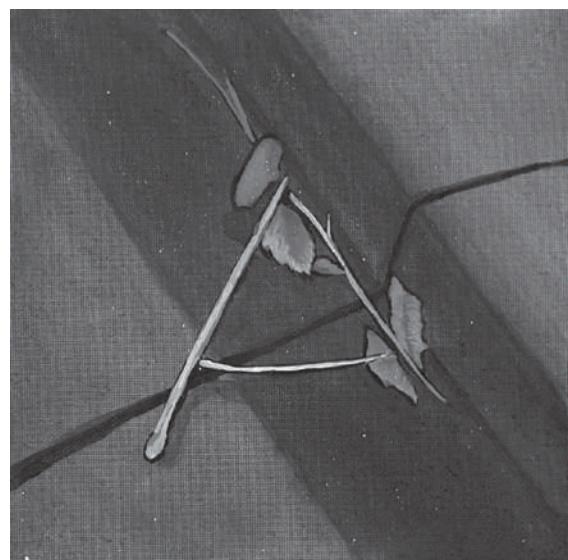
駅ビルの窓の、こびりついた汚れが

絵画を描き上げた。

真夜中の海に、月光が波面を照らしている。

13

路肩の集合体 A (エース)



路肩に集まった小枝や落ち葉は、
私たちに何かメッセージを伝えている。

14

Family

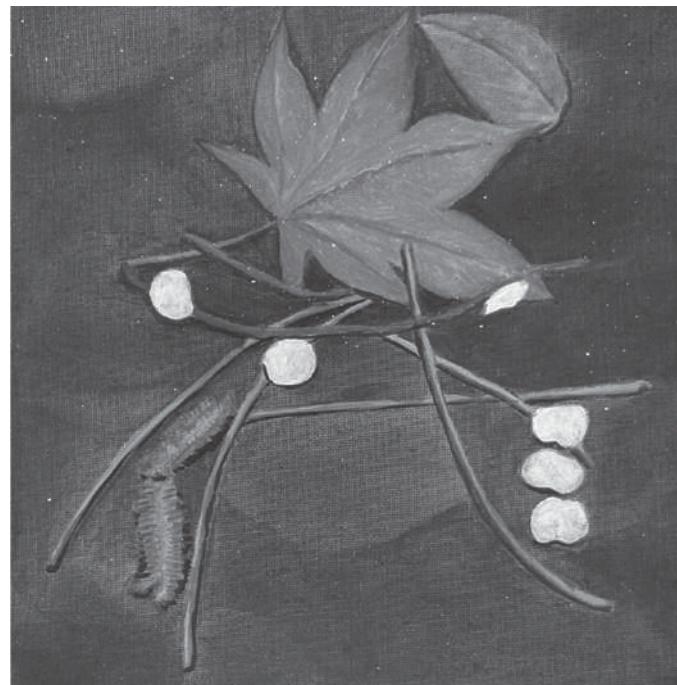


リサイクルに出される前の家族写真。

翌日、回収された。

15

春の池の集合体 A (エース)

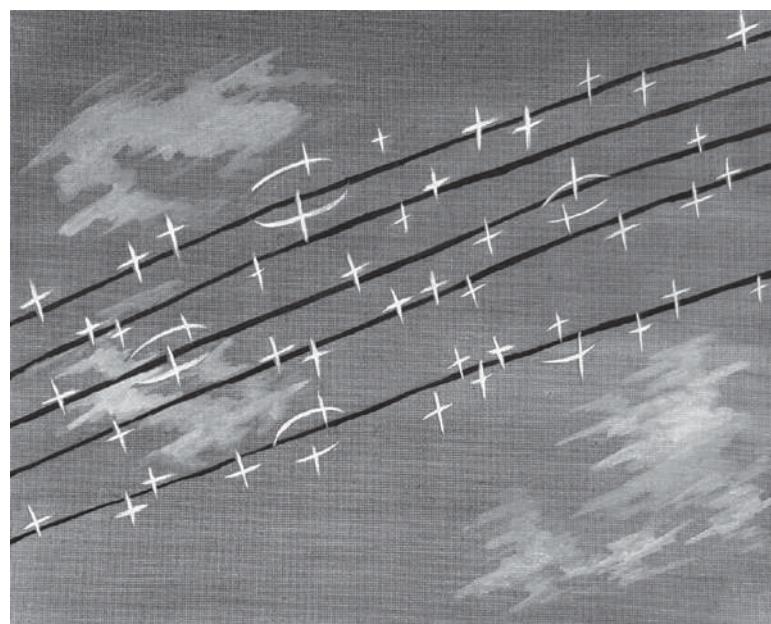


春の池に落ち、集まった小枝や葉、花びらは、

私たちに何かのメッセージを伝えている。

16

五線譜のメロディ



今日の夕方のメロディがあって、
朝日のメロディ、真昼のメロディがある。
全て音色は違うのだろう。

17

おだいじに



歩道にばんそうこうが落ちていた。

誰かが貼ったのかもしれない。

数日後にははがされていた。

いたいの、早く飛んでいったね。

18

第二章



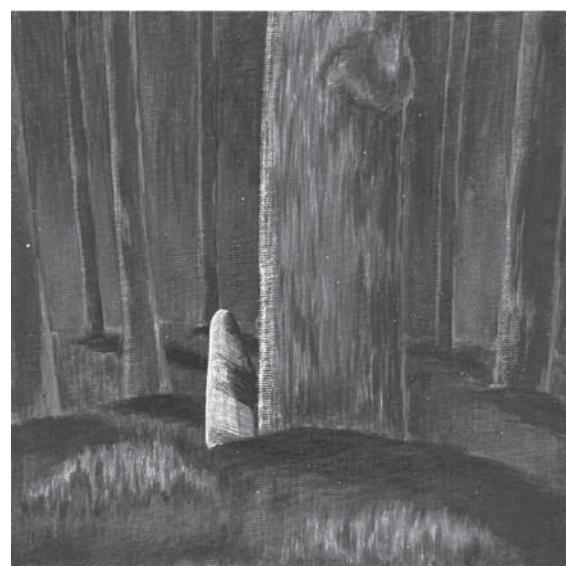
枯れ木の影が地面に落ちた。

落ち葉がこの木の葉として生えた。

そこには第二の枯れ木があった。

19

みいつけた



林の中、三角コーンが身を潜めていた。

鬼が来ないかと待っているように。

20

サンセット・ルーム



夕日が反射し、壁と床で海ができた。

太陽が海に向かって、音を立てて沈む。

どこからか、潮の香りがする。

21

クリスマスツリー



クリスマスイブ。

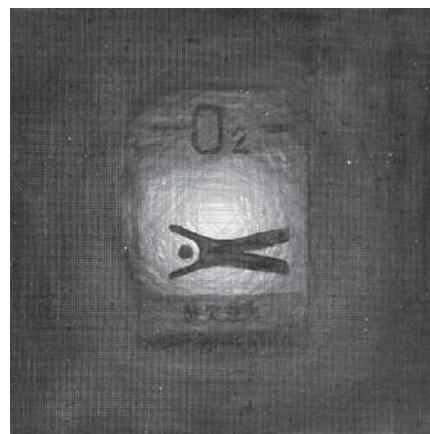
雑草が雪に埋もれず、そびえ立っていた。

ツリーとしてのポテンシャルを感じる。

せっかくのクリスマスツリーだから、星でもつけてやりたい。

22

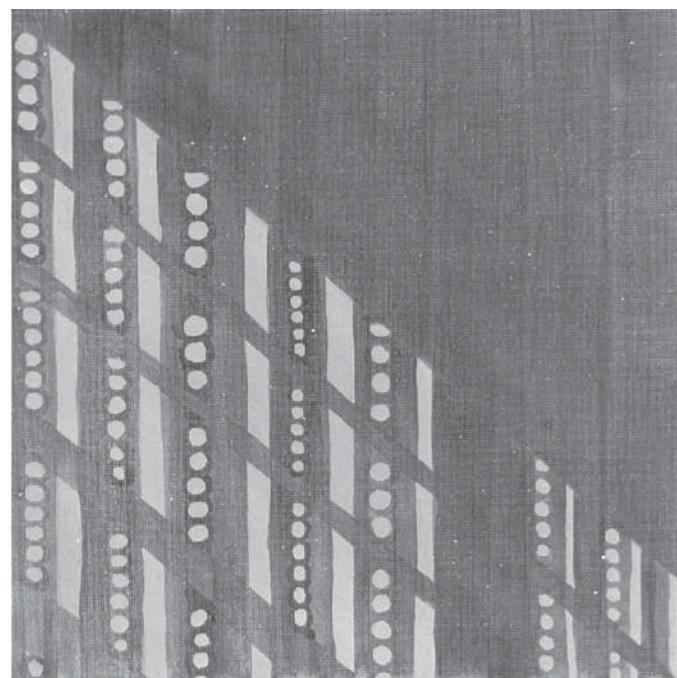
酸欠注意



もし私が酸欠になった時、
視界がかすむ中、看板を見つけ、
そうだったのかと気づき、頽れてしまうのだろう。

23

雨だれ



矩形と丸とがおりなす模様は

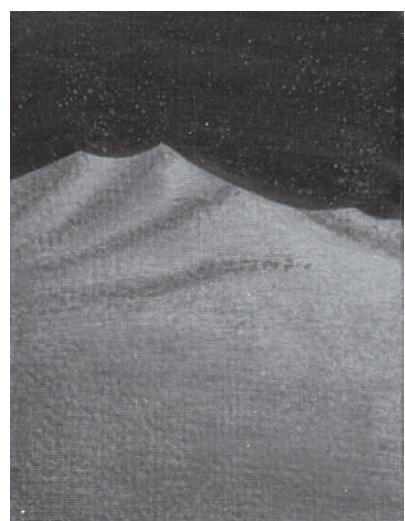
雨のようだった。

軽やかなステップの雨音。よどんだアスファルトの匂い。

生ぬるい湿度感。

24

砂漠の雪



雪の日、氷点下の夜。

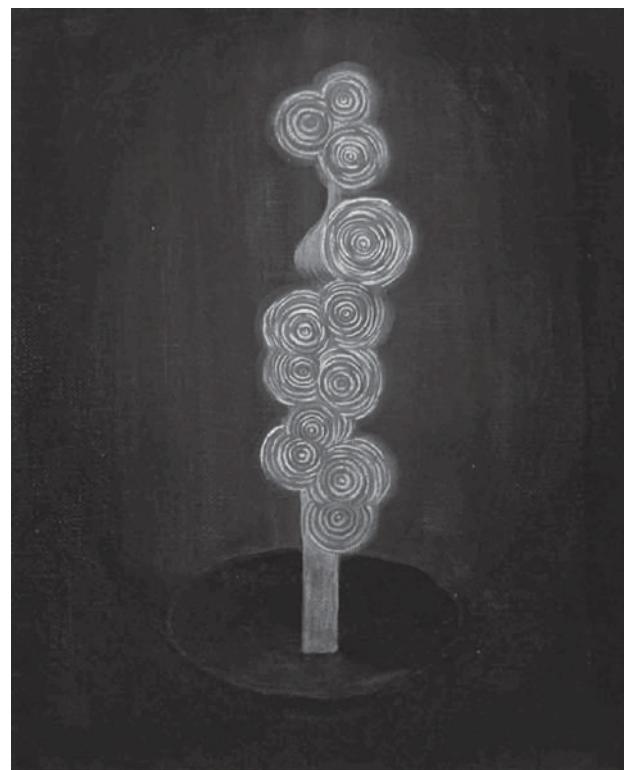
砂のように細かい雪が風に吹かれて

砂嵐を起こすように宙に舞った。

雪なのか、砂漠なのか、わからない。

25

燃えていた



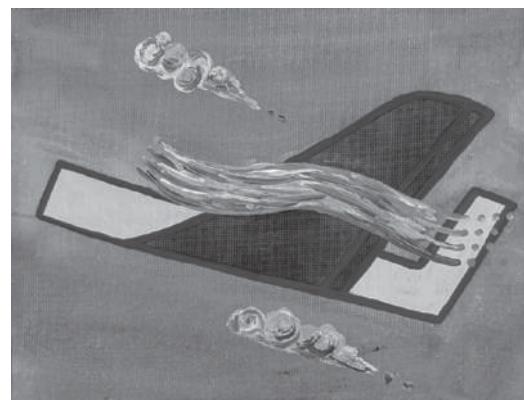
和ろうそく燃えつきる時、

「燃えているのだ」という強い意志が感じ取れる。

最後には、1本の灰と残り香がそこにある。

26

行き先は未定



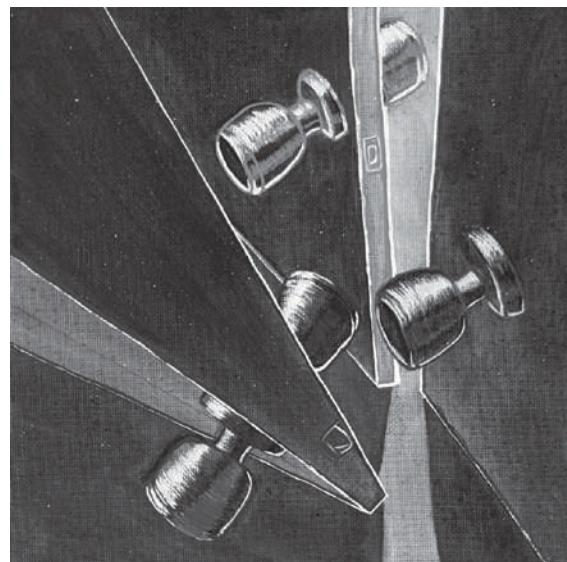
空港にあったハンドドライヤーのロゴデザインは、

どうやら飛行機の車体を表しているらしい。

せっかくだから、飛ばすこととした。

27

3 すくみ



私の住むアパートには、3つのドアがぶつかり合う所がある。

これは欠陥と言うべきか。

今日も今日とて、ドアどうしで喧嘩している。

28

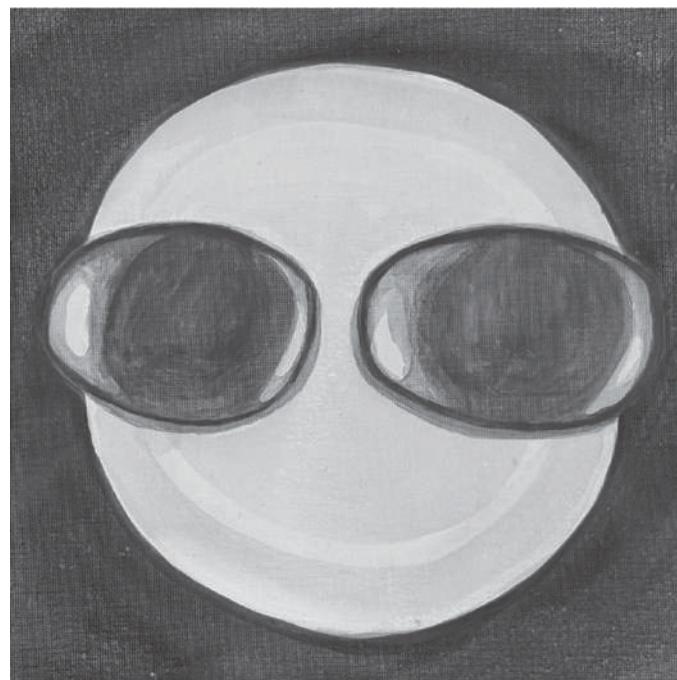
指をはしらせて



曇りガラスが自然とくりぬかれたように、
外のその向こうの景色を見せていた。
小さい頃、曇ったガラスにラクガキをしていたように。

29

ALWAYS WATCHING YOU



パンケーキを焼いた。

パンケーキはこちらを見ている。

食べられるその時まで。ずっと。

30

星座をなぞる



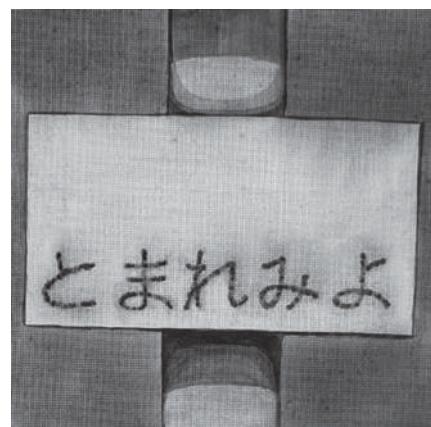
照明の1つ1つの光が星座を構成していた。

いや、星座のようで星座ではない。

子供のあそびだ。

31

煽動



踏切に、

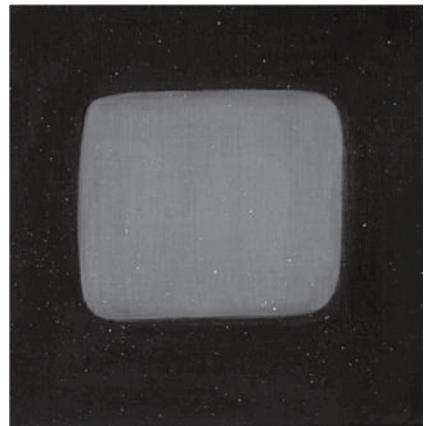
「止まってみなさいよ、止まれるものなら」と

言われた気がした。

気がしただけだ。

32

わたしのまくら



丸一日天日干しにされ、

おひさまの香りをたっぷりと吸いこんで。

そんなまくらでゆっくり寝たい。